

神はリストカットする

松 本 あずさ

奨励者紹介[まつもと・あずさ]

日本キリスト教団はりま平安教会牧師

シオンは言う。

主はわたしを見捨てられた

わたしの主はわたしを忘れられた、と。

女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。

母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。

たとえ、女たちが忘れようとも

わたしがあなたを忘れることは決してない。

見よ、わたしはあなたを

わたしの手のひらに刻みつける。

あなたの城壁は常にわたしの前にある。

(イザヤ書 49 章 14—16 節)

同志社大学へ向かう電車の中、インスタグラムを開き「#(ハッシュタグ)同志社大学今出川キャンパス」「#春から同志社」と検索しました。学部ゼミの様子、サークル活動紹介、歓迎パーティーの案内など、楽しそうな写真が並んでいました。特に新入生には楽しみな予定がたくさんあると思います。

けれども、大学生活は楽しいことばかりではないとも感じます。2022年5月2日神戸新聞の朝刊に、大学に入学したものの、中途退学する学生が10年前の倍以上に増加したという記事が載っていました。特に、不適応という退学理由が増えているそうです。不適応、そんな言葉で簡単に理解したつもりになってはいけない、悩みや痛みがあります。学校に適應できない。友達ができない。授業が分からない。入学後、想像と違っていたと感じ、学ぶ意味を見失う場合が多いとのことでした。

皆さんはいかがでしょう。皆さんの周りにも、大学生活を続けていくことへのしんどさや悩みを抱えている人はいますか。

友人の手にある傷

私が大学生だった時、しんどさを抱えた友人がいました。誰にでも優しく、気配りのできる繊細な人でした。私のささいな悩みも真剣に聞いてくれる、大事な存在でした。しかし、彼女の痛みには気づくことができませんでした。私がとった対応がすべて間違っていたと後で知りました。これから話すのは、最初から最後まですべてが間違った選択です。

ある日、友人と話していると彼女の手首にたくさんの切り傷を見つけました。「何、その傷。見せて」と無理やり彼女の腕をつかみました。「なんでこんなことしたの、ダメだよ」と言いました。「こういうの、リストカ

ットって言うんでしょ。怖いよ。病院に行った方がいいよ」と言うと、「誰にも言わないで。内緒にしてほしい」と彼女は答えました。私たちだけの秘密。私の大事な友人です、私がなんとかしてあげようと思いました。

「もしリストカットしたくなったら、相談に乗るから。電話してきて」と言いました。

何度か電話を受けました。彼女も私も大学生です。アルバイトで悩んでいる時、定期試験の勉強をしなければいけない時、レポートの作成に追われる時、彼女が辛くて電話をする時は私も心の余裕がない場合もありました。「あなただけが苦しいんじゃない」と、突き放したこともありました。私が夜遅く、1時間以上電話で話を聞いたのに。レポートで大変な時にも話を聞いたのに。なぜ彼女はリストカットを続けるの。こんなに心配しているのに。イライラがつのりました。「なんでこんなこと続けるの。私にどうしてほしいの。私の何が不満なの」「リストカットすれば、物事が解決すると思っているの。相手が変わると思ってるの」「もう一度リストカットしたら、友達止めるからね」。そのような酷い言葉を投げつけてしまいました。彼女とは疎遠になりました。

私は最低な行動を続けました。けれども当時、私は悪くないと思っていました。数年後、大学の講義でリストカットについて学びました。リストカットについての本を図書館で借りて読みました。間違った反応、対応として箇条書きになっているもの、「このような言葉をかけたら、相手を追い詰めることになる、絶対にしないでください」と、例文で出ている選択を片っ端から選んでいたと知りました。

神様の手のひらの傷

今日読んだ聖書箇所、イザヤ書 49 章を読んだ時、私はリストカットをしていた友人の手首がよみがえりました。神様がリストカットしているのではないかと、そう思いました。皆さんはどう思いますか。聖書箇所をもう一度読みますので、考えながら聴いてください。イザヤ書 49 章 16 節です。これは、神様の言葉です。

「見よ、わたしはあなたを／わたしの手のひらに刻みつける。あなたの城壁は常にわたしの前にある」。

元々書かれたヘブライ語では「両方の手のひら」と書かれています。神様は、神様の手のひらに、あなたをどうやって記憶させると言っているのでしょうか。私は最初にこの言葉を読み、ボールペンで買い物メモや授業変更を手にかけている光景を連想しました。メモ用紙がない場合、手の甲にペンで書くのが便利です。今の大学生は、手のひらに授業変更メモを書くことはないかもしれません。スマホで撮影した方が簡単ですから。しかし、手に書くとき常に目に入り忘れずに済みます。手のひらにボールペンで書けば簡単に消すことができます。「刻みつける」という強い言葉とは合いません。

次に考えたのは、入れ墨、タトゥーのようなものです。あなたを刻みつける、ということなので、私たちの名前を手のひらに、「神様はあなたが大好き」と、入れ墨のように書き込んだのか、と想像しました。この聖書箇所の言葉は、ボールペンで書いたり消えたりするようなものではなく、手のひらに記憶させる、という意味だからです。

「わたしはあなたを刻みつける」。元々聖書が書かれたヘブライ語では「ハコティーフ」という単語です。他の箇所でも、石板や壁に刻みつけるという意味で使われます（エゼキエル書 23 章 14 節）。聖書の時代、スマホで写真を撮って記録できません。ポケットに入れて持ち運びができるようなメモ用紙もありま

せん。聖書の時代は記憶したい言葉を石板や壁に書きました。石板や壁に、忘れないように刻むのではなく、自分の体に文字を刻む。ものすごく痛い、絶対にあなたを忘れない、その神様の思いを分かっている。そのような神様の決意が感じられる、と想像しました。ただ、聖書の箇所、レビ記 19 章 28 節で「入れ墨をしてはいけない。神であるわたしが禁止します」と書いているので、それも違うのかな。

手のひらに刻む理由

そもそも、なぜ神様が「あなたを手のひらに刻む」と言い出したのか、聖書をさかのぼって読んでいくと、神様が耐え難いほどの痛みを感じていることが分かります。

神様の言葉を人々に伝えるのは、預言者という人たちです。イザヤという人がいます。彼は長年、神様の言葉を伝え続けていました。「戦争をしてはいけない、強い国の言いなりになってはいけない。そんなことをしたら、恐ろしいことになる。神様はそう訴えている」と伝え続けていました。今日は詳しく触れませんが、人々は「神様の言うことなんか聞いていたら損をする。戦争は仕方がない、強い国の言いなりになって守ってもらわないといけないから仕方ない」と神様の言葉を無視します。そして、戦争になり国が滅びました。故郷を失った人々のつづやきが直前のイザヤ書 49 章 14 節にあります。「神様はわたしのことを見捨てた、神様はわたしのことなんか忘れちゃったんだ」。

イザヤ書 49 章まで、いや、聖書の最初からここまで、神様はずっと人間にかかわってきたのに。「神様が無気力になっている人々を慰めなさい」というから、神様の言葉を伝えてきた。しかし、神様は何もしてくれない、見捨てられたわ。もう希望がない」と人々に言われてしまう。大切に思ってきた人間が、無気力になっていく。人間に置き換えれば多大なストレスです。さらに預言者まで「神様の言葉を伝えた、私の努力は無駄だった」と言い出します。同じ章の4節です。「わたしのしたことは骨折り損のくたびれ儲け。むなしい、力を使い果たした」。熱心に言葉を託してきた預言者にまで、こんなつづやきが出てくる。これも大きな痛みです。

リストカットに関する本によると、リストカットを繰り返すのは周りに助けを求められず、追い詰められた末の行動であり、怒りや不安、緊張といった「つらい気持ち」をやわらげる緊急措置だそうです。日本では八百万の神がいると考えられていますが、聖書の神様には同僚はいません。神様は唯一の存在です。「神様は何もしてくれない」「今までしてきたことは意味がなかった」、そんな言葉を突き付けられて、同僚のいない神様は「たとえ人間が忘れても、神様であるわたしは絶対に忘れない。」と叫びます。あなたの苦しみを「見て。あなたへの怒り、不安、悲しみ、愛情、すべてを手のひらに刻む」、神様がこんなにも傷つき苦しんでいることを分かっている。そう訴えています。

もう一つ、「あなたを刻みつける」という言葉について考えます。何を刻みつけるかというと、これは「あなたの名前」ではなく、「あなたの痛み」ではないかと考えます。「あなたの城壁は、いつも神であるわたしの前にある。」と語っているからです。あなたが今抱えている痛みは、城壁のようにあなたの前に立ちただけ、取り除けない痛みかもしれない。しかし、それはあなただけの城壁だけではない。神様にとっても城壁です。あなたが一人でその痛みを越えようとしなくていい。一人で越えようとしなくていい。神様であるわたしが共にいる。わたしが一緒に、その城壁を越える。わたしと一緒にあなたの痛みを刻みつけるよ、というのです。リストカットに似ていると私には思えました。皆さんはいかがですか。

神様って強い存在じゃないの、と思うかもしれません。神様なんだから、誰にも負けない、願いをなんでもかなえられる存在じゃないの、と思うかもしれません。聖書の神様は、感情豊かです。嫉妬もするし、愛する子どもや恋人に酷く裏切られたような痛みを感じていたり、昼も夜も涙を流し続けると語る神様です。そして、人間の様子を見守り、痛い苦しい、と度々つぶやく神様です。

もちろん、聖書の神様がリストカットをすすめているわけではありません。石板にあなたの名前を刻みました、ということはあっても「神様の手のひらに刻む」という表現はここだけです。では、なぜ手のひらに刻むのかといたら、神様は、石板に文字を刻み込むような道具を、手のひらに押し付ける、そのような痛みを知っているということです。

自らを傷つける痛みを知る神様

だから何、と思うかもしれません。私は、神様は、リストカットの痛みを知っていることに意味があると思います。

苦しくて、手を傷つけてしまう神様がこの世界を作った。そういう視点に立つならば、私の痛みを分かってくれる人はこの世界にいるかもしれない、そんな風に考えることもできます。

あの時、友人に言えなかった言葉があります。

「聖書でも、神様がリストカットしているように見える箇所があるよ、分かんないけどさ」

「悩んでいる人って意外と多いのかもね。相談できるところ、あるかもよ。一緒に探そう」

私は自分一人で友人を助けなければ、私なら助けてあげられると思いました。自分の能力を過信し思い上がり、友人をさらに傷つけ、共倒れになりました。

けれども、神様視点、第三者の視線が入れば、私よりも彼女のことを理解している存在があると信じる事ができていれば、神様だったら彼女の痛みが分かるかもしれないと思えていれば、私も少し離れて自分にできること、できないことを冷静に考えることができたかもしれません。できないことは無理よ、と最初に言えたかもしれません。

なぜなら、神様は痛みを知っている。私がかつて逃げ出し、ごまかした友人の痛みを知っているからです。

このチャペル・アワーの時間、いろいろな神様のイメージが語られるはずで。ぜひ、好きな聖書の箇所を見つけるつもりで、チャペル・アワーに出席してみてください。

皆さんの学生生活を支え、助けになるような神様のイメージと出会うことができますように。